グランプリ決まる

サンスター文具

文房具アイデアコンテスト

サンスター文具株式会社（吉松幸芳社長、東京都）は、昨年6月1日～9月8日まで「第29回文房具アイデアコンテスト」の作品を募集していたが、このほど審査結果を発表した。

今回は「ぎゅっ。」をテーマに、そっと指をのせた赤ちゃんのてのひら、ぎゅっ。運動会、かけっこ前に緊張しながら結ぶ靴紐、ぎゅっ。志望校に合格し親友と顔を見合わせて、ぎゅっ。何日もかけて準備したプレゼン当日、ぎゅっ。子供につくるおかずいっぱいのお弁当、ぎゅっ…など、周りにはたくさんの「ぎゅっ。」が溢れており、素敵な発想が「ぎゅっ。」と詰まった文房具のアイデアを募集した。

コンテストには、432点（一般部門2991作品、ジュニア部門1335作品）の応募があり、一般部門のグランプリ（1作品）には賞金100万円、優秀賞（4作品）には賞金10万円。ジュニア部門（中学生以下）のグランプリ（1作品）に、商品券10万円分、優秀賞（4作品）には商品券5万円分を贈った。

また、一般部門とジュニア部門の両方から選出して、サンスター文具賞（1作品）として賞金5万円＋副賞、審査員特別賞（4作品）として賞金5万円＋副賞をそれぞれ贈呈した。

コンテストの結果は次の通り。敬称略。

【一般部門】

グランプリ＝半角の原稿用紙（米田隆浩）

優秀賞＝百記帳（細川卓資）、ミニマルさんのための2アイテムペンケース（小倉利文）、スライドパンチ（岩田一弥）、おいのりスタンプ（中村梨亜／神谷千春）。

【ジュニア部門】

グランプリ＝ネバネバなっとうグリップ（浅沼幸来）。

優秀賞＝けしたあとキラキラがのこるけしごむ（宮坂一十野）、ぎゅっチキス（中村衣那）、KIRIS UMIリサイクルシャープペンシル（茶家慎之助）、Found line（荻田来未）。

審査員特別賞＝すたんぷ・ぎゅっちー（片桐ひろ乃、安次富隆賞）。ザリガニワークス賞＝ホラー付箋（Kitai Rumi／内田未来）。KREVA賞＝思い出ぎゅっとボックスラベル（嶋辰也）、itabamoe賞＝生きホチキス（池田暖）。

サンスター文具賞＝おしキモっペンケース（長倉孝）。

半角の原稿用紙

オカモトヤ

文具の特別販売も

五感刺激するオフィス提案

株式会社オカモトヤ（鈴木美樹子社長、東京都）は、1月21日に東京・有楽町の東京交通会館で「ときめく、たのしく、はたらく」をテーマに、オフィス関連用品の展示会「Office Trip 2025」を開催した。

会場には文具14社、家具10社、OA機器9社、合計33社が各社のおすすめ商品の展示や家具体感エリア、ワークショップに加え、初の試みとして文具の特別販売コーナーを設けた。

文具では、法人向けの商品や需要が高まるノベルティ向けの商材を中心に紹介。

「五感を刺激するオフィス」を提案する家具エリア

家具体感エリアは、「touch and feel 五感を刺激するオフィス」をテーマに、オフィスコーヒーの試飲、コクヨのオフィス診断「はたナビ」、ICTエリアとつないだトークハブ実演、喫煙ブースでの臭い漏れ体験、昇降デスク・テーブル、ポータブルバッテリー、オフィスグリーンの体験展示で構成。

デジタルワークプレイスを背景に需要が高まるテレワークブースやポータブルバッテリーも紹介した。

ワークショップのプログラムは、オリジナルメッセージカード作成、手作り防災グッズ、AED体験、「acane project」（廃棄文具を活かし、貧しい国の子供たちの支援とサステナビリティを実現する同社の社会貢献）の参加体感など、リアル体験で学ぶ企画が好評を博した。

なお、同社は3月7日に、東京・虎ノ門ヒルズステーションタワー9階の本社「pallet」で、ダイバーシティ推進・ウェルビーイングの実現に向けたヒントを提供するイベント「Fellne（フェルネ）フェス2025」（入場無料）を開催する。今回は名古屋の丸天産業とのコラボ開催で、2拠点を繋いで、セミナーや座談会を実施する。

家具ブランド

「マティアッツィ」

○…コクヨ…○

国内の独占販売契約を締結

コクヨ株式会社（黒田英邦社長、大阪市）は、最先端のデザイン力と高い技術力を持つイタリアの家具ブランド「MATTIAZZI（マティアッツィ）」の国内における独占販売契約を締結し、最先端のデザイン力と高い技術力を持つ家具ブランドで、オフィスデザインの提案を強化する。

「MATTIAZZI」は、1978年に北イタリア出身のマティアッツィ兄弟により設立されたインテリアブランド。木製家具の製造を産業とした地域で木工の高い技術を培い、質の高いFSC認証材を用いて、環境に配慮したものづくりを行っている。

人気の高いクレリチ㊧とクッチーノ

統合報告書発行

○…キングジム

株式会社キングジム（木村美代子社長、東京都）は、昨年12月26日に「統合報告書2024」を発行した。

同報告書は、株主・投資家をはじめとするステークホルダーに向けて、中長期的な企業価値向上に向けた取り組みを伝えることを目的に発行している。

3回目の発行となる今回の統合報告書では、2024年8月に発表した第11次中期経営計画の取り組みを中心に、「新たな経営体制でキングジムが目指す未来」をテーマとした、木村美代子社長と社外取締役の鈴木貴子氏による対談や、社員による「キングジムの未来を本気で考える」座談会など、多様な視点からキングジムグループの新たな成長の可能性を紹介している。

発行した「統合報告書2024」

掲載URL＝https://www.kingjim.co.jp/ir/library/integrated_report.html

一括ダウンロードURL＝https://kingjim.jp/tougou2024/

なお英語版は2月下旬の発行を予定している。

キッズデザイン賞

3月3日より応募受付け

キッズデザイン事務局は、3月3日午前10時～5月13日午後1時まで、第19回キッズデザイン賞の応募受け付けをWebで開始する。

キッズデザイン賞は、子どもや子どもの産み育てに配慮したすべての製品・サービス・空間・活動・研究を対象とする顕彰制度。

キッズデザイン賞は、多様なステークホルダーとともに子どもの未来が持続的で明るいものであるように、「子どもたちが安全に、そして安心して暮らす」「子どもたちが感性や創造性豊かに育つ」「子どもを産み育てやすい社会をつくる」という目的を満たす、製品・サービス・空間・活動・研究の中から、子どもや子育てに関わる社会課題解決に取り組む優れた作品を顕彰するもの。

ここでいうデザインは、「意匠」などの狭義のデザインだけではなく、「制度」「取り組み」などの広義のデザインまで含めたものが評価の対象になり、子ども用はもちろん、大人・一般向けに開発されたものでも、子ども子育てに配慮されたものであればすべてが対象となる。

応募対象はデザインミッションに基づく3つの部門（子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン部門、子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門、子どもたちを産み育てやすいデザイン部門）と、応募作品の分野に基づく5つのカテゴリー（プロダクト、アプリケーション・サービス、建築・空間、コミュニケーション、調査・研究）から、それぞれ1つを選ぶ。

審査は7月9日～16日、受賞作品発表は8月20日、優秀賞などの発表は9月上旬から中旬。表彰式は10月6日で、最優秀賞（内閣総理大臣賞）、優秀賞（経済産業大臣賞）、こども政策担当大臣賞、男女共同参画担当大臣賞、奨励賞（キッズデザイン協議会会長賞）、特別賞（審査委員長特別賞）、東京都知事賞、TEPIE特別賞などを表彰する。

応募要項は、https://kidsdesignaward.jpで確認したほしいという。

その多くのプロダクトは、ビスなどの金属素材を極力使用せず、木の素材感や造形の美しさにこだわって作られている。ブランディレクターには世界で活躍しているプラダクトデザイナーのコンスタンティン・グルチッチを迎え、ブルレック兄弟やジャスパーモリソンなどの多才なデザイナーとのコラボレーションにより、エッジの効いた独特なデザインのプロダクトを精力的に生み出している。

中でも「CLERICI（クレリチ）」、「CUGINO（クッチーノ）」、「OSSO（オッソ）」、「PRIMO（プリモ）」などのチェアーやスツールは人気の高いシリーズ。

独占販売の対象範囲は、日本国内におけるオフィス、教育施設、医療施設、官公庁施設。

書籍「会社と社会の読書会」

ヨコク研究所が発売

コクヨ株式会社（黒田英邦社長、大阪市）は、同社のヨコク研究所が執筆・編集する書籍「会社と社会の読書会」を全国の書店およびECサイトにて発売している。

コクヨが掲げる「自律協働社会」というありたい社会像を手がかりに、これからの社会を考える上で重要な指針となりうるテーマやキーワードを拾いあげ、探究するメディア「WORK SIGHT」が、民俗学者の畑中章宏さんを迎え、会社と社会をネタに、読み、考え、語り合った融通無碍な読書会を開催。「論語と算盤」「学問のすゝめ」から「ブルシット・ジョブ」、自己啓発から不倫まで、246冊の本から「日本の会社」という謎に迫る。

著者は、畑中章宏氏、若林恵氏、山下正太郎氏、工藤沙希氏。

発行は黒鳥社。判型はA5判／224頁。定価1800円（税別）。

発売した書籍

能登半島地震へ義援金を寄付

パイロットPメンバーズ

株式会社パイロットコーポレーション（藤﨑文男社長、東京都）の取引先による文具専門店組織である「パイロットプレミアムメンバーズ」は、このほど限定商品売上の一部を能登半島地震の復興支援のために、日本赤十字社を通し1

限定商品売上の一部を寄付

59万9000円の寄付を行った。

同社では、2024年に万年筆／油性ボールペン「cocoon for JAPAN」をパイロットプレミアムメンバーズ会員の文具専門店向けに、1本あたり500円を義援金として寄付する限定商品として企画し、合計3198本を販売した。

出資と業務提携へ

ラスクレパサク

保育・教育業界の課題解決

株式会社サクラクレパス（西村彦四郎社長、大阪市）は、幼児施設向けの保育・教育環境やデジタルツールを提供する株式会社スマートエデュケーション（池谷大吾社長、東京都）への出資と業務提携を行った。

同社への出資と業務提携を通じて、子どもたちの「自己肯定感を育む3つの場」を実現するための教材や保育・教育環境の共同開発、普及を推進する。

西村社長は「美術教育とともに歩んできた弊社は、人の心を豊かに育むことで社会に貢献するという使命がある。既存事業に加えて、保育業界・教育業界の課題解決やさらなる価値向上につながる取り組みとして、スマートエデュケーション社への出資を決めた。弊社は100年の歴史がある会社だが、今回の出資と業務提携により保守的な考えに縛られない、新しいチャレンジを一緒にしたい」。

インテリア雑貨展示会

SOCALOが大阪で開催

インテリア雑貨の展示会「SOCALO OSAKA12」が12月4、5日に天満橋のOMMビルで開催、ハリオがガラスペンを出品

卸店やバイヤー、小売店など約900人が来場した。

会場にはインテリア・雑貨メーカー69社が出展、最新商品を紹介。

耐熱ガラスメーカーのハリオは、ブース内にステーショナリーのコーナーを設けて、ガラスペンやスタンプを紹介。

ガラスペンは2020年からのスタートで、現在20種類（2000円～1万2000円）をラインアップ。スタンプはプロユースのビーカー10㎖とゴム印を組み合わせたスタンプで、ビーカーの印影で実験気分を味わえる。

デジタルカタログへ移行

○…セキセイ

セキセイ株式会社は、毎年発刊してきた総合カタログをこれまでの紙媒体から、デジタルカタログへ移行させて発刊した。

今後はホームページにて公開をするデジタルカタログの利用を望んでおり、さらなる利便性や即時性の向上を目指し、常に最新の商品情報を提供できるよう努めていくという。208ページの編集。

https://www.sedia.co.jp/catalog/sekisei2025/?pNo=1